

ピースフェア 2022 を終えて

二度と悲惨な戦争を繰り返さないために一と、皆さまと開いてきたピースフェアですが、世界のあちこちで戦争・紛争は続き、新たにロシアによるウクライナ侵攻という事態となりました。無力さに打ちのめされつつ、また、スタッフの高齢化で開催が年々困難となる中、会場設営から会期中、撤収まで、たくさんの皆さまのご協力でなんとか開けましたこと、お礼申し上げます。

今年のテーマ「憲法と戦後 77 年」で取り上げたのが「沖縄の戦後と沖縄基地」です。沖縄では地上戦が行われ、一般住民が戦争に動員され巻き込まれて県民の 4 分の 1 が亡くなり、残されたたくさんの孤児。沖縄戦の最中に米軍基地が造られ、戦後も銃剣とブルドーザーで拡大し、土地を奪われ周辺に追いやられた人々の戦後の苦難はいかばかりだったか。その基地から、朝鮮・ベトナム・イラク・・・と米軍機や戦艦・米兵が戦地と行き来する沖縄はずっと言わば戦争中でした。基地があったからこそ起こった事件・事故・環境破壊・騒音被害・・・。辺野古では新基地建設が進み、更にミサイル防衛として南西諸島に次々とできる自衛隊基地。日本国憲法と日米安保条約、憲法九条と米軍基地が共存した「戦後」を体現してきたのが「沖縄」です。パネル展示のほか、玉城知事の「平和で豊かな沖縄の実現に向けた新たな建議書」も読み上げさせていただきました。

「沖縄戦」については 23 日の「沖縄慰霊の日」に「証言映像紹介」が行われ、「久米島の戦争」「遺骨収集」「復帰 50 年 沖縄の今」のパネル展示と、「沖縄」にずっと向き合い続ける皆さまが頼もしいです。

学生の皆さんの「わたし」と「れきし」展実行委員会によるパネル展示、「戦争体験者と若者とのトークセッション」や「いっしょに話そう『わたしと憲法』」で語り合ってくれた若者たち。まっすぐ歴史に向き合い考えを深める若い世代の参加が何よりも「希望」を抱かせてくれました。

例年のシール投票「あなたの好きな憲法条文は？」に加えて、布染めの「憲法前文」の掲示では最終日に「憲法クイズ」が行われていました。参加団体の活動紹介の展示でも「憲法〇×クイズ」があり、憲法についてちょっと立ち止まって考えていただけたでしょうか？

「平和」を感じさせる本町小学校の子どもたちの絵とお習字、朝鮮初中級学校の子どもたちの戦争等をテーマにした油絵・貼り絵のすばらしい表現は、フロアの空気を変えてくれました。

今年初めてドイツ国際平和村がパネル展示に参加。世界中で戦争・紛争が無くならない中、毎年ご紹介している日本国際ボランティアセンター・イラクの子どもを救う会を始め、さまざまな国際 NGO の活動が心強くありがたいのですが、新たな「戦争」に余計怒りが湧いてきます。

昨年に引き続き「千葉市空襲犠牲者」の読み上げを毎日行いましたが、ネットで見たという若者やいつも取材してくださる記者、日替わりで受付の助っ人に来てくださった皆さんと、毎日 5 人ずつ 25 人の方に、千葉市の空襲で命を奪われたお一人お一人の名前を読み上げていただき、詩の朗読が続き、会場全体で大切な時間を共有することができました。

戦争の悲惨な実態を次世代に伝え、どうしたら平和な社会・世界を創れるか一緒に考えたいと、体験者とともに関わってきたピースフェアですが、戦中から戦後・現在へと「戦争」に向き合うことになりました。2014 年の第 1 回目からパネル展示にご参加いただいている団体の皆さまの存在は心強く、ステージでも、今年は少し復活して、素晴らしい演奏と歌声が会場に響きわたりました。ウクレレの弾き語りで歌われた「禎子と千羽鶴」の紙芝居に私が添えたメッセージ「戦争の連鎖を断ち切り、一つの命を大切に作る世界へ！」と、声を上げ続けたいと思います。